

仮想アースの検討(2)(HP 収載)  
—コンデンサーと抵抗の活用(2)—

1. 始めに

前報(1)に引き続き、追加のコンデンサーを入手しましたので、コンデンサーを仮想アースとして使用できるかどうかを試みることにしました。

2. コンデンサーと抵抗の試聴方法

ST氏のご厚意で、追加でいただいたのは下記のコンデンサーです。

評価対象コンデンサー

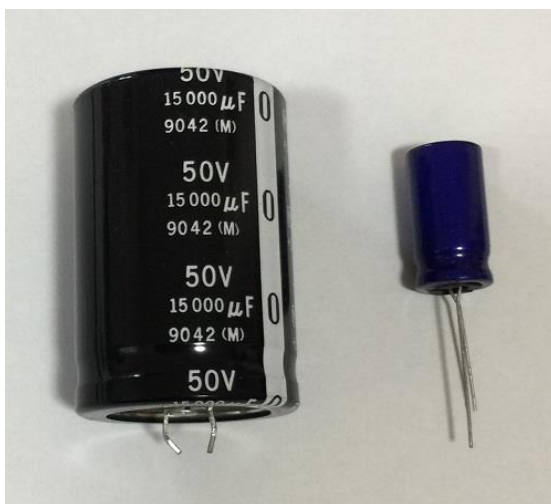
F 電解ブロックコンデンサー 15000  $\mu$ F

G 前報(14)のBと同じ電解コンデンサー 2200  $\mu$ F

前報(1)のBと平行に使用して容量倍にします。

F

G



今回はコンデンサーの容量と音質の関係を調べます。

テスト用のツールは前報(14)で製作したものを使用します。

テストの順は下記のとおりです。

B 単独

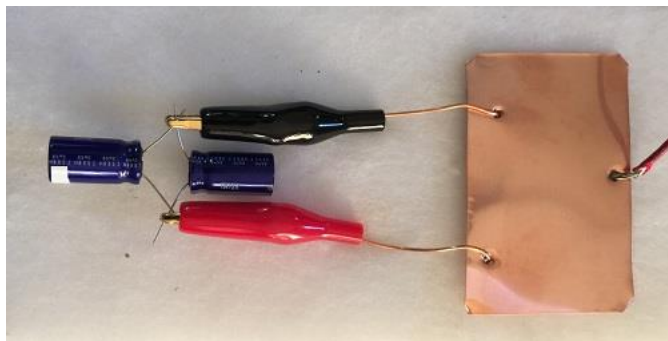
B+G 倍容量

F 大容量

試聴は、EMT981 における CD 再生とし、前報(14)で使用した CD を使用します。

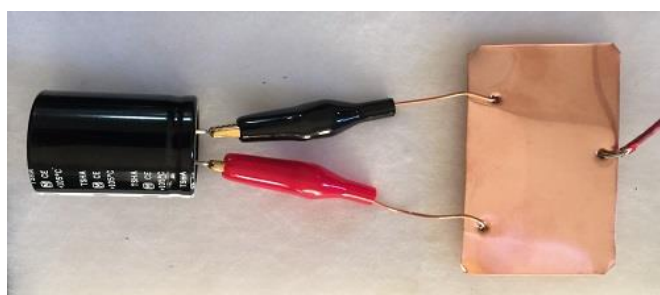
3. コンデンサーと抵抗の試聴結果

まず、Bの電解コンデンサー1個で聴いておいて、Gを加え倍の容量として、イザイの無伴奏ソナタを聴きます。



劇的な変化とは言えませんが、前報(14)のBの効果が促進される印象です。即ち、若干高域が伸び、中低域の深みが増すように感じられます。

次に、Fのブロックコンデンサーを接続してイザイの無伴奏ソナタを聴きます。



B+Gでの効果がさらに促進される印象です。即ち、高域が素直に伸び、中低域の深みが一層増すように感じられます。試みに EMT981 のアースポイントへの接続を外しますと、ざらつき感が増え、音場が平面的になります。

そこで、もう一度 F のブロックコンデンサーの EMT981 のアースポイントへの接続を行い、残りの CD を聴いていきます。

ベートーヴェンのチェロソナタでは、F のブロックコンデンサーをアース端子に付けますと、チェロもピアノも音の焦点があって、音像と音場表現が向上します。

モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲では、F のブロックコンデンサーをアース端子に付けますと、フォルテピアノの音の芯が一層しっかりし、古楽器の質感が明瞭になります。

#### 4. まとめ

コンデンサーのアースラインへの接続効果を認めました。傾向としては、コンデンサーの容量依存性があるようで、テストした範囲では、コンデンサーの容量を増やした方が、効果が大きいようです。

以上